



GDSC 説明会 / 座談会

Introduction

まずは、スピーカーの自己紹介を軽くさせていただきます。

東京都市大学情報工学部情報科学科4年の平井佑樹と申します。世田谷キャンパス所属です。

趣味はゲームでパソコンゲームだったり、Nintendo Switchのゲームだったり、マルチプレイでできるゲームを中心に色々楽しんでます。

今回はIT関連のコミュニティなので、それに関連した話をするとよく使っているプログラミング言語はJavaです。情報科学科だとC言語を学んだりしますが、僕の初めてのプログラミングがJavaを用いたものだったので、それもあってJavaをよく使っています。

※プログラミング言語とはプログラムを書くための言葉の事です。プログラミングの中にも様々な言語があり、それぞれ書き方や特性にも違いがあるんです。

2023年の9月から2024年の8月まで、GDSC Leadとして、活動させていただいています。何卒宜しくお願い致します。

早速ですが、皆さんは以下のうち自分に当てはまっていることはありますか？

- 身近で改善したい課題がある
 - 個人や大学、バイト先等場所問わず！



- チームでプロダクトを作る経験を得たい
- ITの分野に興味がある

もし当てはまるものが1つでもあればぜひ、Google Developer Student Clubs(GDSC)に参加することをおすすめします！

とはいえ、急にGDSCへの参加をおすすめされてもそもそもGDSCが何か分からないと参加できないですね。ここからはGDSCとは何かについて説明していきます。

What is GDSC?

まずは、GDSCのサポートをしているGoogle Developersがアップロードしている動画があるので、そちらを見ていきましょう。英語の動画もあるので、必要であれば自動翻訳機能をご利用ください。

- ▶ [Level up with Google Developer Student Clubs](#)
- ▶ [Join a Google Developer Student Club](#)
- ▶ [Google Developer Student Clubs \(GDSC\) Japan Promo Video](#)

GDSCは2017年にインドで開始され、大学で学ぶ内容と実務の間にある知識の差を埋めるために始まりました。そして日本に上陸してから3年目のプログラムになります。GDSCはGoogleのテクノロジーに関心のある学生向けのコミュニティで、Google Developersのサポートを受けた独立した団体です。

このプログラムでは身近なコミュニティにおける課題をテクノロジーで解決することを目指します。それに合わせて、限定イベントやワークショップなどを通じて、学生の開発能力の向上も目指していきます。その中で、他の学生や現役エンジニアとの交流ができたり、Google社員や現役エンジニアから学んだりすることができます。

過去の事例を見ていきましょう。

- [陸上部の電話連絡500人分をGASでDXしてみた | GDSC阪大支部](#)
- [パンの置き置きアプリでフードロス削減](#)
- [Solution Challenge Japan 2023](#)



規模に差はありますが、身近にある課題を解決するという点は共通しています。そして、課題解決を達成するために必要な技術は勉強会を通してみんなで身につけていっています。これがGoogle Developer Student Clubsです。

At Tokyo City University

Google Developer Student Clubsが何かを知ることはできましたが、活動内容自体は各チャプター(大学)で決めていきます。それでは東京都市大学ではどのような活動が行われ、どのようなことを目標としていくかについて説明していきます。

東京都市大学のチャプターでは、現在24人のメンバーがチャプターに参加登録しています。また、活動開始は去年の11月となっていて、今月で6ヶ月目となります。また、これまで6つのイベントを開催しており、全イベント合計で109の方に参加登録いただきました。GDSCのプラットフォームを見ながらこれまで開催されてきたイベントを見ていきましょう。

- [Git / GitHub Workshop](#)
- [Google Apps Script勉強会](#)
- [TensorFlow勉強会](#)

イベントの他にも学生向けにアプリを作ることに挑戦しています。まだ制作途中ですが、このようなアプリを作っていたりします。

The image is a screenshot of the GDSC TCU website. At the top, there is a navigation menu with links for 'GDSCとは', 'イベント', 'アプリ', 'なにか', and '掲示板'. Below the menu, there is a weather forecast: '雨 夜のはじめ頃 くもり、雨 夕方 から くもり 所により 朝 から 曇過ぎ 雷を伴い 激しく 降る、晴れ 時々 くもり'. A blue box contains the text '今日は午後から「図書館開館時間は10:00~22:00だよ」'. On the right side, there is a cartoon mascot of a blue bird wearing a white shirt with 'TCU' on it. At the bottom, there is a detailed campus map of Tokyo City University with various buildings labeled, including '7号館', '1号館', and '食堂'. The map also shows '北門', '通用門', '南門', and '東門'.



Tokyo City Universityでの目標は、「課題解決のためのプロダクトをチームで完成させること」です。非常にシンプルな目標だと思います。私の考えになりますが、社会に出て求められることは、チームでの共同作業を円滑に進められることだと思っています。そして、その経験を学生の内に身につけることは、社会に出てから大きなアドバンテージになるのではないのでしょうか。また、情報系の職業は就活の際にプログラムの制作経験をよく聞かれます。その際に、〇〇の課題を解決するために、チームで△△を制作しました。と答えられれば、その経験も含め、大きくアピールできるポイントになると思います。他の職業でも、チームで何かに取り組んだ経験は大きなアピールポイントになるものが多いと思います。それらのことを踏まえ、このGDSC Tokyo City University Chapterでは、「課題解決のためのプロダクトをチームで完成させること」を目標として掲げました。

目標達成のために、実施していくことを考えました。

- 様々なレベルに合わせたワークショップ/勉強会の開催
 - 未経験の方に向けてはプログラミングの基礎
 - 初心者向けとしては小さなプログラムの制作実践
 - 中級者向けとしては高度なプログラムの制作実践などなど...
- 日常で感じた改善してみたいことを集めてみる
 - 常設フォームを設置します！
- 改善したいことが集まってきたら、解決したい課題を選び、どのようなアプローチができるか考えてみましょう。
- 各メンバーが課題解決のためにどのように貢献できるか考えてみましょう
- 制作途中で生まれた課題に対してもこれらのことを繰り返していきましょう

もちろん、この流れだけでは解決できない問題も発生するかもしれません。その時はどのような対応ができるか考え、臨機応変に対応していきましょう。

GDSCの活動は定期的なものではありません。定期的に活動することも計画できますが、今のところその予定はありません。活動内容はメンバーのやってみたいことに合わせて、コアメンバーと呼ばれる運営チームが中心となってイベントを計画します。コアメンバーについてはコミュニティへの参加形態の箇所で記述しますが、運営メンバーとだけいただければ大丈夫です。イベントが計画されたら、日付を確定し告知します。Google Developerとしては1ヶ月に1回以上のイベントが理想的とのことだったので、頻繁にイベントが行われることはなく、他サークルとの兼部も可能になっていると思います。また、入門者から上級者全ての人に向けたイベント開催というのは難しいと思うので、全てのイベントに参加して頂



く必要はありません。自分にあったイベントに参加してください。ただ、イベント運営を手伝って頂ける人は必要なので、できる範囲で手伝っていただけると助かります。イベント運営を手伝っていただいた方には、その人にあったイベントを開催して還元していきたいと考えています。イベントの開催場所についてですが、大学内で場所を確保するのが非公認団体だとできないようなので、基本的にオンラインでの開催としたいと考えています。横浜キャンパスからの参加者がいることも考え、レンタルスペース等を利用したオフライン開催の場合も、可能な限りハイブリッド開催にしたいと考えています。

勉強会やワークショップについて、メンバー間で教えられるところはぜひメンバー間で教えあっていきましょう！Leadの私からはプログラミングの入門から初級、Gitの使い方などが教えられますが、需要によって勉強して教えられるようにします。また、Googleが提供しているプログラムもあります。一例として[codelabs](#)があります。それでも学習プログラムがない場合は、協力しあって一緒に勉強していきましょう！

ハッカソンについて。ハッカソンはチームでの開発経験を積めるイベントです。限られた期間内で、テーマに合ったプロダクトを作ることが目標です。ここでもぜひ、普段から日常にある課題を発見していき、貯めてきた課題からピックアップして課題解決を目指していきたいと考えています。

最後に、Google Developer Student Clubsの公式イベントであるSolution Challengeです。17の持続可能な開発目標(SDGs)をGoogleのテクノロジーを用いて達成することが目標です。最大4名のチームを組み、協力して制作します。優秀チームにはGoogleやGoogle Developer Expertからのサポートがあります。より詳しく知りたい方や、過去に入選した作品が知りたい方はSolution Challengeで検索してください。

How to join

最後に、このコミュニティへの参加方法を説明します。

連絡手段についてですが、このチャプターでの連絡はSlackとチャプターメールを用いていこうと考えています。

このコミュニティでは大きく、2つの立場に分かれています。1つが運営に関わるコアチーム、もう1つがイベントに参加をするメンバーです。それぞれの役割と参加方法について説明していきます。



コアチームはGDSCチャプターの運営を行います。イベントの企画を行ったり、SNSでの広報活動、参加者や登壇者への案内等を行います。IT知識が必ずしも求められるわけではなく、広報やマーケティングなどの役割もコアチームに該当するので、チャプターの運営に関わりたい方はぜひコアチームをお願いします。また、集まったメンバーにイベント告知のために使うアイコンやデザインを用意できる人がいらっしやらないので、デザイン部門も募集中です。コアチームの募集はチャプターSlackにて募集する予定です。コアチームは運営の仕事があるため、大変ではあると思いますが、限定イベントや企画等で、できる限り還元できるようにしたいと考えています。

メンバーはGDSCのイベントへの参加者のことです。イベント開催のお知らせをメールで行う予定なので、ぜひGDSC Tokyo City Universityのページから、チャプターへの参加をお願いします！基本的にはメンバーからのフィードバックはイベント後のアンケートが中心になるとは思いますが、もし企画してみたいイベントがあれば、コアメンバーに連絡を取って、ぜひ開催してみましよう！

Slackへの参加について

[Google Developer Student Clubs Tokyo City University](#)のチャプターページのトップにSlackに参加するための申請フォームを用意しています。そちらから申請をお願いします！

このコミュニティ Google Developer Student Club Tokyo City Universityは2023年の9月に設立され、まだまだ始まったばかりのコミュニティです。今回お話したイベントはコミュニティで開催していきたい一例でしかありません。参加してくださる皆さん次第で、コミュニティの形は様々なものになっていくと思います。ぜひ、皆さんもこのコミュニティに参加して、様々な人が参加できるコミュニティ作りをしていきませんか？皆様の参加を楽しみにしています！